

ねがいのいえニュース 第3号

生活支援ハウスねがいのいえ広報紙・2004年2月3日発行 発行責任者：藤本真二
〒331-0071 さいたま市西区高木 185-29 Tel (048) 626-1909 Fax (048) 626-1920
E-mail negainoie@r6.dion.ne.jp Hp <http://www.negainoie.com>



新年明けましておめでとうございます。年賀状をくださった皆さまにはすっかりごあいさつが遅れましたが、この場をお借りしておわびさせていただきます。

去年はオープン以来4ヶ月も利用の少ない日が続きましたが、支援費の指定をいただいた1月から急激に利用が伸び、一気に超多忙な毎日になりました。まだまだ運営は厳しいものの、もうひと息で黒字が見えるところまで来ております。そして、ねがいのいえにとって初めての年末年始は宿泊が毎日続き、忙しく過ごせたことが予想外の嬉しい悲鳴でした。今年もたくさんの方から応援していただけるよう、スタッフ一同精一杯がんばっていかうと思っております。

最近の大きな動きについての報告から致します。

上尾市生活サポート事業の指定がおりました。

平成16年1月5日付けで上尾市の生活サポートが使えるようになりました。今後上尾の皆さまは1時間500円の自己負担でサービスが受けられるようになります。まだ登録を済ませていない方は、障害福祉課で登録をされるようお願いいたします。

ただし、上尾市の場合は予算に限りがあり、市が用意した予算を超えて利用があった場合、どれだけサービス提供してもそれ以上の金額は役所から払ってもらえないことになっています。サポート事業の先輩である「のつく」でも、それでは困ると再三訴えつづけた結果、今年度はとりあえず補正予算がつくことになり、サービスを提供した分は全額受け取ることができたのですが、来年度に関してはまったく不明だそうです。

ねがいのいえにも予算の額は提示されましたが、おそらく年度途中で足りなくなるのではないかと考えられます。その時には市に訴えをしていくつもりですので、会員のみなさまからも、ぜひ声をあげていただきたいと思います。

万が一補正予算がつかなかった場合、1時間500円では運営できなくなるので、皆さまと協力し合って働きかけを続けなければならないと思っております。



支援費による居宅介護の指定がおりました。

平成16年1月22日付けで、支援費による居宅介護の指定がおりました。言葉がわかりにくく皆さまには混乱を招くようですが、わかりやすく言えばホームヘルパーです。

支援費のホームヘルプは4つの使い方があり、身体介護・移動介護・家事援助・日常生活支援と

分かれており、それぞれの事情に応じて月何時間もらえるか、役所で決められるようです。

使い勝手は実際のところ不明で、家族が働くためには使えない、通学には使えないなど、制約の多い制度です。こちらとしましてもどれだけ皆さまの支援になるのかやってみなければわからない状況ですが、できるだけ利用者の自己負担を少なくするために、使える制度はなんでも使っていこうというチャレンジの気持ちで指定をとりました。わからないことがあればいつでもお電話ください。

情報をお寄せください。

最近時々耳にするのが、障害を持ったお子さまの卒業後を心配されているご家族の声です。将来的には、誰もが遠くの施設に旅立つことなく、生まれ育った場所で働きながら暮らせる街を作っていくことがねがいのいえの大きな目標ですが、そのためには長い時間をかけて階段を一步步登っていかねばなりません。

現在のねがいのいえは、放課後の時間から動き始める仕事になっており、日中の時間帯が空いています。学校を卒業された方で、作業所などに行けない方、行くところがない方などがいらっしゃれば、成人のデイサービスとして行うことが可能ですが、この地域に来たばかりの私たちには、そのようなニーズがどれだけ隠れているのかわかりません。通所に通ってみたが合わなかった、作業所の数が不足している、などのうわさも聞きますが、もしもそのような事情でお困りの方がいらっしゃれば情報をお寄せください。今後の事業展開の参考にさせていただきます。

良い介護を考えるセミナーを開催します。

ねがいのいえが主催する高齢者介護を考える連続講座です。お招きする講師は3人とも、利用者の声に耳を傾け、ひとりひとりの希望をかなえ、笑いを共有しながら元気を与えてくれる介護の達人たちです。良い介護、良い関わりとはどんなものなのか考える機会になると思います。介護の必要なご家族を抱える方、施設で働く介護職・ケアマネージャーの方たちに特に聴いていただきたい講座です。



第1回 3月1日(月) 18:30~20:30 大宮ソニックシティ4階 市民ホール404号

◇中田光彦氏 「ひとりひとりの願いをかなえる“全ての利用者を特別扱い”のススメ」

参加費 1000円

第2回 4月17日(土) 10:00~16:00 さいたま市文化センター 大集会室

(南浦和駅西口より徒歩10分)

◇青山幸広氏 「利用者も職員も元気にするデイサービスへの改革」

◇阪井由佳子氏 「一軒家のデイサービスが発信する多機能ケアの必要性とその素晴らしさ」

参加費 2000円

★定員はいずれも100名。電話でお申し込みください。048-626-1909まで。

年末年始のお客さま

一軒家の事業所で、高齢者のデイサービスからショートステイまで必要なサービスをなんでもしてくれる場所がある。宅老所と呼ばれている。ねがいのいえもこの宅老所のひとつである。杉並区に「和笑庵（わしょうあん）」という宅老所があり、そこに住むお年寄りのご家族から、年末年始を預かって欲しいという一本の電話が12月の半ばに入った。



「和笑庵は休みになるんですか？」

「オープン以来一度も休まなかったけど、今年は休むそうです」

なるほど、それは理解できる話だと思った。業界では有名な和笑庵だが、ずっとがんばってきたらたまには休みも必要だろう。うちだっていつかは休みたい日もあるかもしれない。

同業者が協力し合う時だと思った。



こうして、軽い痴呆を抱えた83歳の奥様と、ふだんは娘さんと同居されている89歳のご主人が、久しぶりにご夫婦で一緒のお正月をねがいのいえで過ごされることになった。

12月27日の午後、ご家族と車で到着。温厚な笑顔の奥様は、初めてのねがいのいえに抵抗感もない様子で家の中に入られた。足が不自由になってしまったのがわからず、立ち上がって歩こうとするため転ぶ危険があり、常に見守りが必要との話だったが、そんな様子は一切なく、部屋の中でも穏やかな微笑みを浮かべていらした。初対面のスタッフと目が合ったとき、何かを思い出したかのように声を上げて笑い出す。楽しそうな雰囲気をかもしボランティアの人を見てはおかしそうに笑う。常に目が離せないとうかがっていた話とはまったく違う、仕事としては大変なお客さまだった。

一方ご主人の方は、ふだんは普通だが、以前入院した時に混乱が見られたそうで、夜わからないことを言うかもしれないとご家族からの話だった。

奥様は食事もだいたいひとりできれいに食べていたが、朝食だけは自分からはしを持つとはしなかった。少し様子を見てから介助を始めようと思っていたら、ご主人が隣から食べさせ始めた。ふだんは離れて暮らすおふたりだが、1週間の間、朝はすべてご主人が食べさせてくださった。

来られて2日間は他のお客さまも多く、みんなで歌を歌ったり会話をしたりとにぎやかに時間が過ぎた。3日目からは静かな年末を迎えた。退屈そうなご主人へ、買い物を手伝ってくれませんか

と誘うと、喜んで応じてくださった。昔から働くのが好きだったご様子がうかがえた。久しぶりにおふたりで過ごす生活を楽しんでくださっているようだったが、そろそろご主人に混乱が見え始めた。夜中に2階で奥様を探し始める。もうすぐ娘が迎えに来るからと帰りたいような発言が聞かれるようになる。4日目に

「今日娘が迎えに来るから」と言われた。自分から迎えを頼んだようで、急きょ車を手配した娘さんが夕方暗くなった頃やって来た。ところがご主人の中では奥様も一緒に帰るものだと思っていたので、奥様を残しては帰れないと娘さんに話している。こちらの知らない間に交わされた電話

だったため詳しくはお聞きしなかったが、ご主人が帰るときは奥様も一緒のはずだったことは推測できた。こうして、その後帰りたくなった時にはこちらで対応しますという話をご家族と交わした。

その2日後の朝にも、ご主人が帰ると言い、スタッフが「では車で送らしましょう」と一緒に出て行った。途中スタッフが携帯を自分で鳴らす。

「はい、もしもし・・・あ、そうですか・・・今奥様が、ご主人がいなくなったので探してるんですけど、どうしますか？」

「そうか、じゃあやはり戻ろうかな」

こんな様子や、朝の食事風景などから、奥様を思う温かさがいつも感じられた。

その後は帰りたいたいという発言は聞かれなかった。

3ヶ月ぶりに風邪でダウンした理事長が何もしない間にも、スタッフやボランティアの方たちが、川越や近くの神社へ初詣に連日出かける。最後の日には行田のお城まで行って来た。少人数でその日の天気や気分によってアドリブで行動する小さな宅老所の良さが、存分に発揮されたお正月だった。

足に麻痺を抱える奥様の介助は、理事長がまず方法をやってみせる。本来同性の介護を基本とするねがいのいえだが、慣れない女子スタッフたちに技術を伝えるため、何度かトイレや入浴の介助に入った。そのうちスタッフたちも自分なりにコツをつかんで、上手に身につけていった。しかしまたもスタッフを自慢したいのは、声かけや対応の優しさだった。3人の女子スタッフたちは、それぞれが自分の性格に合ったペースで介助をすすめる。しかしその待つ間にかける言葉の柔らかさ、表情の優しさは、誰にでもできるものではない、感動さえ覚えた。どんな年齢、どんな障害の方が来られても、このスタッフたちが待つねがいのいえは、利用者にとって安心できる場所になるはずである。

無事1週間の宿泊を終えて帰られたご夫婦。娘さんも喜んでくださった。奥様はついに一度も立ち上がる様子は見せず穏やかだった。ねがいのいえに来られた初めての高齢の方たちに喜んでいただけただけの充実感は、スタッフの心にさわやかに残った。

ボランティア大募集

ここ2ヶ月間毎日満員に近い状況が続き、6人のスタッフでようやく回しています。ボランティアさん大募集です。特に平日の午後來てくださる方、大歓迎。学生から主婦まで、経験は問いません。ぜひご連絡ください。

ボランティア研修を実施します。

オープン前の昨年6月に行ったボランティア研修を、再び実施します。春休みの繁忙期に入る前に、障害を持つ方たちとの関わりの技術を知っていただきたいからです。これからボランティアで参加したい方はもちろん、お子さんとの関わりに戸惑っていらっしゃるご家族の方もどうぞ参加してください。希望者はお電話でご連絡ください。

〈日時〉3月7日(日) 10:00~16:00

〈内容〉基本的な介護技術・障害を持つ方の脳と心を発達させる運動プログラムの理論と実技・心のケアの理論と実技

